１．個人データ

職名：准教授　　氏名：深見 貴成　　学位：博士（学術）　e-mail：tfukami@kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

【1920 年～30 年代の地方自治と地方行政の研究】

明治期に成立した地方自治制度は、1920 年代に大きく再編成される。その再編から戦時中に至るまでの地方自治と地方行政のあり方を研究している。具体的には、1923 年（大正 12）の郡制廃止と 1926 年（大正 15）の郡役所廃止が地方に与えた影響を分析し、その後、戦時期に至るまでの地方自治・地方行政のあり方を研究している。

また本研究は、兵庫県をフィールドとして進めている。それは、明治中期以降、兵庫県は 25 郡という全国でも多くの郡数を持つ大きな県として存在し、大都市から都市近郊農村、純農村とさまざまな特性を持つ地域が県内に包含されており、多くの事例が検討できるためである。

なお、廃止された郡役所は、戦時期の 1942 年（昭和 17）に地方事務所として「復活」するが、戦後になって廃止・再編された。この戦後の地方自治・地方行政の分析も今後の研究テーマの一つである。

【戦前日本社会における農業団体の研究】

近現代日本においては、行政機構とは別にさまざまな団体が中央・地方で活動していた。農家人口が現代に比して多かった明治から昭和初期には、数多くの農業団体が重要な役割を果たしており、その中でも農会（系統農会）と呼ばれる農業者団体を研究対象としている。農会は 1899 年（明治 32）に農会法が公布され、その後、帝国農会―道府県農会―郡・市農会―町村農会と系統的に設立されたことから、「系統」農会と呼ばれる。

これまでの研究で農会は、「地主的団体」として評価されることが多かったが、本研究では、農会は「農業者全体の団体」として、大正期以降、政治的・社会的に活発な活動を進めたことを分析し、戦時期の農業団体の果たした役割、そして戦時期の農業政策を明らかにしようとしている。

農会は 1943 年（昭和 18）に、農会と同様に有力な団体であった産業組合などの他団体とともに「農業会」という団体に再編され、そして戦後になって農業会は、農業協同組合（ＪＡ）へと引き継がれていく。このような過程をたどる戦時・戦後の農政も今後研究を深めていきたいと考えている。

３．その他のデータ ３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・日本史
・日本近現代史

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・兵庫県の近現代史

（３）キーワード

・近現代史